

## 気管支喘息における逆流性食道炎の実態調査

灰田美知子<sup>1)5)</sup>、小柳久美子<sup>1)</sup>、橋口明彦<sup>2)5)</sup>、小川勝利<sup>3)5)</sup>、鎌田 智<sup>3)5)</sup>、黒木宏隆<sup>4)5)</sup>  
半蔵門病院アレルギー呼吸器内科<sup>1)</sup>、BML<sup>2)</sup>、アミカライフサイエンス<sup>3)</sup>、  
バンビ-薬局一番町店<sup>4)</sup>、環境汚染等から呼吸器患者を守る会（通称）エパレク<sup>5)</sup>

**【目的】**GERD(Gastro-esophageal reflux disorder)は咳嗽による増悪もあり呼吸器疾患との合併に留意する必要がある。今回、内科外来の患者にFSSG(Frequency Scale for the Symptoms of GERD)を配付し実態調査を行った。

**【方法】**内科患者384例を対象とした。男性143、女性 241;平均年齢52.3歳、65歳以上:113;65歳未満:264人であった。喘息合併症例は253名(65.9%)、男性93名、女性160名、平均年齢50.6歳であった。年齢不明(N=4)を除き249名中65歳以上66名(26.5%);65歳未満183名(73.5%);喘息非合併症例は131名(34.1%)男性50名、女性81名、平均年齢:55.6歳であり、128名中65歳以上:47名(36.7%);65歳未満81名(63.3%)であった。喘息患者は年齢が有意に低かったが(p=0.0071)性別には有意差はなかった。

**【結果】**F値8以上の症例(N=111)28.9%の平均年齢は46.9歳(N=107)、8以下は71.1%(N=273)年齢 54.4歳(N=270)(P=0.0001)であり、また男性4.74(N=143)、女性6.89(N=241)であり女性が有意に高かった(P=0.0007)。喘息合併例は6.6(N=253)、非合併例5.1(N=131)であり喘息合併例で有意に高かった(P=0.0179)。またF値8点以上(N=111)の喘息合併例はN=82、非喘息例はN=29であり、喘息患者の比率は73.9%と高く、非重症例と重症例を比較すると前者は4.6(N=26)に対し、後者14.2(N=5)であり重症例で有意にF値が高い事が分かった(P=0.0003)。

**【結論】**喘息患者はF値で高値を示し、GERDの合併に対し考慮が必要と考える。